

緑のしるべ

～夏号～

令和元年6月

茨城県県南農林事務所
稲敷地域農業改良普及センター

稲敷市江戸崎甲541
TEL 029(892)2934
FAX 029(892)6684



先進事例研修の様子



稲敷地域青年農業士会の 活動をご紹介します

稲敷地域青年農業士会では、会員の経営力向上のための先進事例研修会や稲敷地域の農業発展を図るため、就農啓発を目的とした農業高校生との交流会を開催しています。

平成三〇年は、愛知県において先進事例研修会を行いました。十四品種のトマトを栽培し、自社ハウス内でトマト狩りイベントを開催しながら消費者交流を大事にしている石原農園や、ドローンによるレンコンの薬剤散布試験を行っている堀田農園とJAあいち海部れんこんセンターを視察しました。JAあいち海部れんこんセンターでは、コンテナでレンコンが出荷され、規格毎に選別、計量を通じて箱詰めが行われていることを学びました。レンコンを栽培している青年農業士も多く、効率的な栽培管理や出荷体制の参考になったようでした。

農業高校生との交流会では、江戸崎総合高校グリーンテクノ系列の生徒三〇名を対象に「いなしきアグリカフェ」を開催しました。青年農業士が作成した自己

紹介シートを基に、生徒が質問をする形で交流しました。生徒からは、どれくらい経費がかかるかなどの農業経営の実態、朝の作業開始時間や休日の過ごし方など農家生活に関する質問が投げかけられていました。青年農業士からは「生徒から積極的に質問があり、とても農業に興味があることが分かった。」という感想が挙げられました。「いなしきアグリカフェ」は今年度も開催予定です。

稲敷地域青年農業士会は、今後も地域農業のリーダーを目指して、経営力向上に向けた研修会や担い手育成活動を実施していきます。



「アグリカフェ」の様子

ブロッコリーの育苗について

秋冬どりの作型では育苗期が高温となります。灌水や温度管理に注意し、がっちりとした良い苗に育てましょう。

育苗容器…128穴トレイ

育苗日数…20～25日(本葉3～4枚くらいで定植 図1)

発芽適温…20～25℃。軒下等涼しい場所で発芽させる。

播種方法…割り箸等で深さ8mm程度の穴を開け、1穴に1粒。

播種後は、種子の2倍の厚さになるように覆土し、トレイ底面から水滴が垂れる程度にたっぷり灌水します。

発芽までの管理…発芽までは表面を乾かさないようにトレイを重ねて発芽させます(図2)。一番上には新聞紙等をかけておきます。2～3日で発芽が始まったら、光の弱い夕方にトレイを広げます(遅れると徒長します)。

育苗場所・育苗は風通しが良く、西日の当たらないところで行います。露地の場合は、雨が当たらないように、トンネルの用意をしておきます。

コンテナやたる木の上に置いて、高床で育苗します(図3)。



図1 定植直後の苗



図2 播種から発芽まで



図3 発芽後

根がトレイ外へ出るのを防止し、根鉢の形成を促します。

高温対策…ハウス内で育苗する場合は、サイド等を開放します。

気温が30℃以上になる時は、寒冷紗(シルバーや白色で遮光率30%前後のもの)で遮光します(徒長防止のため、遮光を行う際は、晴天時の9時～15時を目安とします)。

灌水…灌水は基本的には朝に行いますが、乾燥が激しい時は日中にも行います。夕方以降は土の表面がやや乾いているようにします(夜間に土が過湿だと苗が徒長します)。

定植2日程度前から、徐々に灌水を控え、十分な光を与え外気に慣らします。

防除…害虫防除のため、育苗箱に粒剤や、灌注剤の施用を行います。

灌水を控え、十分な光を与え外気に慣らします。

定植2日程度前から、徐々に灌水を控え、十分な光を与え外気に慣らします。

灌水を控え、十分な光を与え外気に慣らします。

灌水を控え、十分な光を与え外気に慣らします。

イネ縞葉枯病に注意!

近年、イネ縞葉枯病の発生が県内各地で確認されており、被害が拡大しています。



葉の退緑症状



穂の出すくみ症状

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウシカが媒介するウイルス病です。発病株は葉に黄白色の縞状の病斑が生じます。生育初期に発病すると枯れ上がり、出穂前に発病すると穂が出すくんで籾が不稔となり、減収してしまいます。

対策としては、病気の発生源であるヒメトビウシカを防除す

ることが重要です。育苗箱施薬は六月中旬頃の本田散布による初期防除を徹底しましょう。

また、水田周辺のイネ科雑草はヒメトビウシカの生息場所です。畦畔の草刈りを徹底してください。



ひこばえの病徴

収穫後にも注意が必要です。発病株の刈り株から伸びだすひこばえにも、縞葉枯病の病徴が現れます。このひこばえはヒメトビウシカの生息・越冬場所にもなるため、病害発生の有無に関わらず、収穫後は早めに耕起しましょう。



農薬は、正しく責任をもって使いましょう

農薬を使用する際は、「適用農作物」「使用量・希釈倍数」「使用時期」「成分の総使用回数」などが定められています。間違った使用をすると農薬取締法違反になるので、使用前に必ず確認し、誤った使用をしないようにしてください。

「適用農作物」は、トマトとミニトマトなど大きさが違うものや、ダイズとエダマメなど収穫時期が違うものでは農薬の登録上、別作物の扱いになるものがありますので注意しましょう（別表参照）。

「使用量・希釈倍数」は、同一農薬でも、使用時期により異なる場合があります。

「使用時期」は、収穫前日数などで決められています。

「成分の総使用回数」は、基本的に、は種の準備作業から収穫終了までを一作と考え、その間の回数を数えます。有効成分ごとのほかに、製品での使

適用農作物の例（一部抜粋）

大作物群	中作物群	小作物群	作物名	作物名に含まれる別名、地方名等
野菜類	根菜類	畑地根菜類	しょうが	根しょうが
			葉しょうが	やなかしょうが、筆ショウガ
	豆類（種実）		いんげんまめ	
			えんどうまめ	
			だいず	
	豆類（未成熟）		えだまめ	
			さやいんげん	ヒラザヤインゲン、モロッコインゲン
			さやえんどう	スナックえんどう、スナッフエンドウ
			実えんどう	グリーンピース
	なす科果菜類	ピーマン及びとうがらし類	トマト	
			ミニトマト	
			ししとう	
			とうがらし	
			ピーマン	カラーピーマン、オランダパプリカ
			キャベツ	チリメンキャベツ、サボイキャベツ
芽キャベツ			ブチフェール	
ブロッコリー				
茎ブロッコリー			スティックセニョール	
たまねぎ				
葉たまねぎ				
穀類	とうもろこし	とうもろこし（子実）		
		未成熟とうもろこし	スイートコーン	

用回数にも制限があるので、使用回数を超えないようにしてください。

また、農薬を使用したら毎回必ずタンクだけでなくホース、ノズルも良く洗浄し、次に使う時に混ざらないようにします。

農薬使用後は、ほ場ごとに、何の作物（作物名）に、何（農薬名）をいつ（使用日）どのよう

龍ヶ崎しんりよく会がプロジェクトを発表しました

平成三〇年度茨城県農業青年プロジェクト実績発表会において、「農と福祉に架ける橋」農福連携の取組について」というテーマで当会の活動を発表し、茨城県農業研究クラブ連絡協議会会長賞を受賞しました。内容は、発表者の鎌田さんの就農のきっかけであった、農業の作業療法的側面を活かした障がい者への支援に関する取り組みです。

まず、障がい者に農作業を経験してもらうため、ジャガイモやカンショの植付け等を行い、障がい者の反応や感想をききました。また、福祉事業所の体験活動への需要、受け入れ農場の対応等について検討しました。その結果、福祉事業所の農業への関心が高まり、農場側には、福祉関係という新たな販路を得ることができました。一方、一連の農作業を障がい者一人で行うと、疲労により作業精度がバラつくことがわかりました。

そこで、障がい者の作業体系の検証のため、落花生の播種から収穫までの分業による疲労の低減、精度向上を検討しました。

その結果、作業の分業化により、発芽率が向上し、収穫作業の効率化が図られました。

農業体験活動は福祉事業所から高い要望があり、農場側が、一人ひとりに合った作業を割り当てることで農業が障がい者雇用の場になる可能性があることが確認できました。一方、農場側では、障がい者に適した作業環境の提供、危険を伴う作業への対応、経済性や行政機関の継続的な支援といった課題が見えてきました。

これらの課題を解決して、農福連携活動を継続できるように仕組み作りを行っていききたいと思えます。

龍ヶ崎しんりよく会

2017年設立
龍ヶ崎市の新規就農者
(4名：園芸品目を生産)

活動内容
各種イベントでの野菜直売
野菜加工品の試作
直売所の目玉となる野菜の検討…等



日々、龍ヶ崎市の農業を盛り上げたいと考え、活動しています

**令和元年度 稲敷地域
農業学園を開催します！**

稲敷地域農業改良普及センターでは、農業を始めて数年の方を対象に、農業学園を開催しています。栽培関係等の基礎的な技術に関する講座のほか、同年代の農業者と情報交換・交流できる貴重な機会にもなります。

月	各講座内容 (予定)
6	開講式 (先輩農業者講話・視察)
7	水稲講座 (広域)
8	ヤングファーマーズ ミーティング
10	簿記講座
11	スガノ農機 (株) 見学
1	プロジェクト活動発表 先輩農業者との交流会
2	土づくり・閉講式

【お問い合わせ先】
稲敷地域農業改良普及センター
(担当：千ヶ崎)
電話：〇二九・八九二・二九三四
FAX：〇二九・八九二・六六八四

**農業大学の
紹介・学生募集**

県立農業大学校では、高校生卒業者(若しくは見込者)を対象に農業部(農学科四〇名・畜産学科一〇名)、園芸部(園芸学科三〇名)の学生を募集します。一年生は全寮制で、二年生は希望入寮制となります。

また、農業大学校卒業生、短期大学等の卒業生(若しくは見込者)を対象として、研究科一〇名を募集します。

◆入学願書の受付期間

- ◎推薦入学(各学科)
令和元年九月三十日～十月十八日
 - ◎一般入学・前期(各学科)
令和元年十一月十一日～十二月六日
 - ◎一般入学・後期(各学科)
令和二年二月三日～二十一日
 - ◎研究科
令和元年十一月十一日～十二月六日
- ◆問合せ先 県立農業大学校**
電話：〇二九・二九二・〇〇一〇
FAX：〇二九・二九二・〇九〇三
<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/nodai/>
茨城県農業総合センターで検索

**いばらき農業アカデミーが
始まります**

茨城県では、農業技術向上に意欲的な方や農業を始めて間もない方など、幅広い方を対象に総合的な学びの場を提供するため、産学官が連携して講座を開催しています。

今年度は三十四講座が開催され、受講者は目的に応じて自由に選択して受講できます。講座へのご参加お待ちしております。

開設講座 (一部抜粋)
・新設ヤングファーマーズミーティング2019 (8月上旬)
・法人化促進講座 (4回)
・新設農業法人等従業員育成講座 (3回)
・農業生産工程管理(GAP)講座 (2回)
・生産環境管理講座(土壌3回 病害虫・植物保護5回)
・新設鳥獣被害対策講座 (4回)

その他の講座についてはいばらき農業アカデミーで検索

●問合せ先 いばらき農業アカデミー事務局
電話：0299-45-8321
FAX：0299-45-8350
<https://www.agriacademy.pref.ibaraki.jp/>